

度白くなれば冬本番になると言われていきます。また、右前方には、ふたつの頂を持ち昭和40年代のテレビ人形劇「ひよっこりひよたん島」をほうふつさせる**金華山**が見えてきます。山頂には熊野神社があり、山伏修験の霊場であったと言われています。一つ二つ集落を越え峠を下って会見地区に入ると、左手を見れば集落を見下ろす格好で「**伯耆三十三観音霊場**」の第一番札所である**金龍山雲光寺**が座しています。明徳年間（1390年頃）の開創といわれ毎年8月17日には、**盆踊り（小松谷盆踊り）**が行われます。また初夏の季節には右手山中より流れ来る**金田川**に**蜚が乱舞**し、県内屈指の群生地となっておりまます。これには、地元の人々の地道で愛情たつぷりの蜚復活劇が陰にありました。このあたりから特産品の**富有柿**の畑が目につきます。



小松谷盆踊り

そして信号のある交差点にあたります。ここを右に行くとダム湖を横目にとつとり**花回廊（フラワーパーク）**へ向かいますが、今回は左に進路を取り天萬の町へと向かいます。ここでは、毎年富有柿の収穫時期に「**全国柿の種吹きとばし大会**」が開かれ、寒くなる前の最後の熱戦が繰り広げられます。



全国柿の種吹きとばし大会

また、**天萬神社**の夏祭りは、「水無月さん・輪くぐりさん」と呼ばれ、お参りの前に氏子達は各戸に配られた人形で体を撫でて、茅の輪をくぐり神前に納めます。そして神社では、氏子達の罪穢を祓い、災難退除・交通安全を祈願して、この人形を深夜大川に流す神事を行います。

ぐんと田園が広がり見晴らしが良くなってきました。このあたりは古墳の密集地です。ここには山

陰最大級の前方後円墳である**殿山古墳**があります。この地に下りて歩くと古代からの風を感じるかも知れません。



殿山古墳

さて、そうしている間に車は南部町を後にします。富有柿デザインの街路灯に見送られて。

「なんぶ百選」の一部をご紹介してきましたが、人生を豊かにする感動や感激は、現地へ出向き、自分の目で、また肌にかけて得られることが多くあります。「なんぶ百選」をガイドに季節に応じて、その広さ大きさ、深さ、そして楽しさを求めて出掛けてみませんか。